

2017年8月16日

各位

**オプジーボ® 20mg、100mg 点滴静注（一般名：ニボルマブ）
台湾においてプラチナ製剤による治療歴を有する再発又は転移性
頭頸部扁平上皮がんに対する効能・効果の追加承認を取得**

小野薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：相良暁、以下、当社）は、8月14日に台湾の現地法人である台湾小野薬品工業股份有限公司（以下、台湾小野）が、ヒト型抗ヒト PD-1（programmed cell death-1）モノクローナル抗体「オプジーボ® 20mg、100mg 点滴静注（一般名：ニボルマブ）」（以下、オプジーボ）について、プラチナ製剤による治療中または治療後に病勢進行が認められた、IHC（免疫組織化学染色法）による腫瘍の PD-L1 発現レベルが 1%以上の再発または転移性頭頸部扁平上皮がん患者の治療薬として、台湾食品薬物管理局（TFDA）から承認を取得しましたのでお知らせします。

頭頸部がんは、頭頸部領域に発生する悪性腫瘍の総称であり、原発部位には、口唇、口腔、鼻腔、副鼻腔、上咽頭、中咽頭、下咽頭、喉頭、大唾液腺および粘膜悪性黒色腫があります。台湾における年間発症患者数（甲状腺がんを除く）は約8,500人*と推定されています。再発または転移性頭頸部がんの治療には、プラチナ製剤を中心とした化学療法が第一選択として推奨されていますが、化学療法施行後の早期に再発または転移が認められた場合の新たな治療選択肢が必要とされています。

*： 中華民國 103 年（2014 年） 癌症登記報告

オプジーボは、PD-1 と PD-1 リガンドの経路を阻害することで抗腫瘍免疫応答を再活性化する免疫チェックポイント阻害薬です。日本では、当社が 2014 年 9 月に根治切除不能な悪性黒色腫の治療薬として発売しました。その後、2015 年 12 月に切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌、2016 年 8 月に根治切除不能または転移性の腎細胞がん、2016 年 12 月に再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫、および 2017 年 3 月には再発又は遠隔転移を有する頭頸部がんに対する承認を取得しました。また、胃がんについても承認申請しており、食道がん、胃食道接合部がん、小細胞肺癌、肝細胞がん、膠芽腫、尿路上皮がん、悪性胸膜中皮腫、卵巣がん、胆道がんなどを対象とした臨床試験を実施中です。現在、オプジーボは、日本、米国および欧州連合を含む 60 カ国以上で承認されています。

台湾小野は、オプジーボがより適正に使用されるために、安全性および有効性に関する臨床データを集積して、本剤の適正使用に必要な措置を講じていきます。なお、台湾においては、2014 年 7 月に BMS 社と締結した戦略的提携関係に基づき、引き続き台湾小野と台湾 BMS 社が共同で販売を促進していきます。

オプジーボ® 20mg、100mg点滴静注の概要

製品名	オプジーボ® 20mg、100mg点滴静注
一般名	Nivolumab（遺伝子組み換え）
効能・効果	1. 切除不能または転移性の悪性黒色腫 1.1 イピリムマブでの治療後、かつ、 BRAF V600 変異陽性の場合、 BRAF 阻害剤での治療後に病勢進行が認められた切除不能または転移性悪性黒色腫 1.2 BRAF V600 野生型の切除不能または転移性の悪性黒色腫 2. プラチナ製剤による化学療法治療中または治療後に進行が認められた転移性の扁平上皮非小細胞肺癌 3. 腎細胞癌 血管新生阻害薬の治療歴を有する進行期腎細胞癌 4. 頭頸部扁平上皮癌 プラチナ製剤による治療中または治療後に病勢進行が認められた、IHC（免疫組織化学染色法）による腫瘍の PD-L1 発現レベルが 1% 以上の再発または転移性頭頸部扁平上皮癌
用法・用量	通常、成人にはニボルマブ（遺伝子組換え）として、1回 3 mg/kg （体重）を2週間間隔で 60 分間かけて点滴静注する。
承認取得日	2017年8月14日
製造元	小野薬品工業株式会社
輸入販売元	台湾小野薬品工業股份有限公司
販売提携	Bristol-Myers Squibb (Taiwan) Ltd.

台湾小野薬品工業股份有限公司について

台湾小野薬品工業股份有限公司（所在地：台湾・台北市）は、2014年12月に小野薬品工業株式会社の100%出資の子会社として設立しました。オプジーボをはじめとする抗がん剤など一部のスペシャリティー製品について自社販売を行っていきます。台湾市場において、当社製品のさらなる浸透に努め、自社で生み出した製品を広くご使用いただけるよう取り組んでいきます。

小野薬品工業株式会社とブリistol・マイヤーズ スクイブ社の提携について

2011年、当社は、ブリistol・マイヤーズ スクイブ社（BMS）と締結した提携契約により、当時、当社がオプジーボに関するすべての権利を保有していた北米以外の地域のうち、日本、韓国、台湾を除く世界各国におけるオプジーボの開発・商業化に関する権利を供与しました。2014年7月、当社とBMSは、この戦略的提携契約をさらに拡張し、日本、韓国、台湾のがん患者さん向けに複数の免疫療法薬を単独療法および併用療法として共同開発・商業化することを合意しました。

以上

<本件に関する問い合わせ>
小野薬品工業株式会社 広報部
TEL : 06-6263-5670
FAX : 06-6263-2950